天文学とプラネタリウム 第77回

www.tenpla.net

お月見イベント計画中！

今月のお題

台北天文館訪問記

海外で科学館やプラネタリウムを訪れてみると、日本との共通点相違点が見えてきて興味深いです。今回は台北の天文館をご紹介。

高梨直紘（東京大学）
平松正顕（台湾 中央研究院）

台北市立天文教育科学館。台北市街地の北に立地するこの館は、ドーム直径 25m のツアイス製プラネタリウムと立体シアター、屋上天文台を備えた 4 階建ての科学館です。7 月のある土曜日に、ここを訪れてみました。

入口を入ると、夏休みの週末ということもあって親子連れでにぎわっていました。展示エリアで私を出迎えてくれたのは、吹き抜けにつるされた巨大な太陽系の惑星の模型。その下では、ハッブル宇宙望遠鏡打ち上げ 20 周年を記念する特別展示が行われていました。ハッブルの模型と観測成果解説とともに、台湾の代表的な天文台である鹿林（ルーリン）天文台の望遠鏡に使われていた鏡（実物）と台湾中央研究院が米スミソニアンとマウナケア山頂で共同運用する電波望遠鏡 SMA の模型も展示されていて、目覚ましい勢いで発展する台湾の天文学研究の様子も垣間見ることができます。

常設の展示エリアは、四季の星座や月の満ち欠けの仕組みを解説する模型や星の一生解説パネルなど歴史を感じるオーソドックスなもの。ロケットの模型や宇宙ステーションなど宇宙開発系の展示物は小さい子たちにも人気のようでした。日本の国立天文台野辺山宇宙電波観測所の詳細なジオラマもあってびっくり。

漢字文化圏である台湾ならではの楽しみ方は、日本ならカタカナで表記されるものの漢字表記を見ること。アポロ計画とそこで使われたサターン V ロケットはそれぞれ「太陽神計画」「農神 5 型」。こうして意味を取って訳しているものもある一方、日本の M（ミュー）ロケットが「迷宇」と音訳されていたりもします。この漢字だと宇宙で迷子になってしまいそう…。

科学館 4 階には、テーマパークにあるような乗り物に乗って宇宙を旅する "CosmicAdventure" という施設もありました。子供に大人気で、さすがに大人が一人で乗るのは憚られたのですが、ちょっと気になる展示方法ではあります。一方ドームシアターでは、ハッブル宇宙望遠鏡修理ミッションの IMAX 映画が上映されていました。大阪では 3D 上映されているこの番組、台北では普通の 2D 上映でした。中国語吹き替えだったので細かいところは分からないものの、全天周映像の圧倒的な迫力はさすが。そのあとにはプラネタリウムを使った星空解説もありました。

金色のパイナップルのような外観のドームシアターと台北天文館。向かいには国立台湾科学教育館という別の科学館もあります。

9 月にはプラネタリウムのリニューアルが行われ、常設展示の更新も計画されているそうです。リニューアル後もまた訪れてみたいものです。今度はどんな面白い展示物に出会えるでしょうか。